

34 前大峰 雉子沈金衣裳筥

一点

昭和七年（一九三二） 木製漆塗、沈金
五五・〇×八四・五×一〇・〇

黒漆塗りの衣裳筥の蓋表に、沈金の技法でつがいの雉子を彫り表した作品。沈金とは漆塗りの面に彫刻刀で文様を彫り、その彫りの凹みに金属箔や粉を漆で定着させて文様を表す技法である。本作は羽の部分に緻密な線彫りを重ね合わせて、羽の量感を豊かに表す工夫が凝らされ、笹や草むらは、箔を押しさない素彫りのままで表現している。昭和七年の第十三回帝展に出品された。漆の黒に金を際立たせた線の表現に、気品ある洗練された作品との高い評価を得て、宮内省の買上となった。

作者の前大峰（一八九〇～一九七七）は、石川県輪島で沈金の技法を学び、明治四十五年に独立、大正八年の石川県工芸奨励展で受賞、大正から昭和初期の献上品制作にも携わった。帝展には昭和四年第十回展に初入選、翌年には特選を受賞した。それまで全国的には無名であった前が、この入選、受賞を得たことにより、昭和二年に帝展に新設された美術工芸の部門において、広く有能な技術者を集めて公平に評価するという意義を示した例として話題となり、輪島の沈金技術の高さが広く知られる機会になった。戦後は日展に出品を続け、昭和三十年には重要無形文化財「沈金」の保持者に認定された。日本工芸会創設に参加し、これ以降は日本伝統工芸展を中心に作品の発表を続けた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections